

神の国の奥義(28)

=人となられた神⑬=

■御言葉:ヨハネ8:1-11

- ① 姦淫の女:律法学者・パリサイ人は女を民衆の真ん中に立たせる(1-3 節)→大衆サディズム ex. 亀田一家(ヒーローから罪人へ)、ネットリンチなど
- ② 罾=イエスが石打を命じれば赦しの使命に反するが、赦せば律法に反する(4-6 節)
- ③ イエスの応答(7節)→外にある石の律法ではなく、心の律法(良心)に訴える(ローマ 2:14-15)
- ④ 律法学者・パリサイ人のしつこさ=サディズムによる粘着性・偏執性(=強迫傾向)→イジメなどの原因
- ⑤ 罪を赦す権威を持つイエス(10-11 節)→神の不等式: <イエス>>律法>; 私たちは何を最も大切にするのか?
- ⑥ 罪の赦しの根拠:御子を認めること(マタイ 12:8;ヨハネ 3:18;ヘブル 7:28)
- ⑦ 律法との関係:律法は聖であり、それ自体よいもの(ローマ 7:12;マタイ 5:17)→こちらが死ぬことによって律法をまっとうし、律法から解かれる(ローマ 7:4)
- ⑧ すべての鍵は**死と復活の法則の主観的な適用**

■暗証聖句

ヨハネ8:11 イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。」

マタイ12:8 人の子は安息日の主なのである。

ヨハネ3:18 御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。

ローマ7:4 ところで、兄弟たち、あなたがたも、キリストの体に結ばれて、律法に対しては死んだ者となっています。それは、あなたがたが、他の方、つまり、死者の中から復活させられた方のものとなり、こうして、わたしたちが神に対して実を結ぶようになるためなのです。

7:6 しかし今は、わたしたちは、自分を縛っていた律法に対して死んだ者となり、律法から解放されています。その結果、文字に従う古い生き方ではなく、“霊”に従う新しい生き方で仕えるようになっているのです。